

2. 第3回和漢薬研究所研究発表会

平成10年5月14日(木) 13:00~17:00

5月15日(金) 9:00~17:00

共同研究棟6階大会義室

1. 薬効解析センター

- ・民族薬物データベース(ETHMED)の開発並びに構築
助教授 小松 かつ子
- ・ I. 神経ネットワーク賦活化因子としてのTA20に関する研究
II. 抗そう痒活性を有する和漢薬の検討
助手 東田 千尋
- ・三七人參の遺伝的多様性と品質に関する研究
博士研究員 伏見 裕利

2. 生物試験部門

- ・老年痴呆-不安・うつ-漢方方剤-生薬
教授 渡辺 裕司
- ・タイ薬用植物 *Mitragyna speciosa* Korth. 葉部の主要アルカロイド成分 mitragynine の抗侵害受容効果との作用機序
助教授 松本 欣三
- ・遺伝子発現を指標とした薬物作用機序の解明と和漢薬作用：慢性脳虚血により発現変化する因子の検索
助手 東田 道久
- ・両側総頸動脈永久結紮ラットの学習記憶障害に対する tacrine の作用
技官 村上 孝寿

3. 資源開発部門

- ・資源開発部門の研究方針
教授 谿 忠人
 - 1) 和漢薬の基源と品質と資源の研究
 - 2) 方剤と配剤生薬の薬能と方意の研究
 - 3) 和漢薬の医療情報活動
- ・「雪蓮花」及びその関連薬物の生薬学的研究
助手 山路 誠一

4. 細胞資源工学部門

- ・細胞資源工学部門の最近の研究概要
教授 服部 征雄
- ・腎不全における温脾湯の基礎的、臨床的検討
助教授 横澤 隆子
- ・和漢薬の代謝に関する腸内細菌遺伝子に関する研究 III.
助手 宮代 博継
- ・相思子に含まれるサポニン及びC-グリコシルフラボンについて
技官 中村 憲夫

5. 臨床利用部門

- ・DHA 吸入とマウスのアレルギー性肺疾患
教授 浜崎 智仁
- ・マウスにおける serotonin の痒み関連行動惹起作用の週令による変動
助手 長澤 哲郎

6. 化学応用部門

- | | | |
|---|-----|-------|
| ・伝統薬物の生物活性物質の探索 | 教授 | 門田 重利 |
| ・薬物-蛋白質相互作用系の化学的解析 | 助教授 | 畑中 保丸 |
| ・ <i>Alpinia blepharocalyx</i> K. Schum. の生物活性新 Diarylheptanoid | 助手 | 手塚 康弘 |
| ・Dicaffeoyl quinic acid 誘導体の合成に関する研究 | 技官 | 長岡 武馬 |

7. 病態生化学部門

- | | | |
|--|-------|-------|
| ・癌転移及び免疫アレルギー性疾患の機序の解析と制御 | 教授 | 済木 育夫 |
| ・免疫応答性（遺伝的体質）は変化するか | 助教授 | 中島 松一 |
| ・ α -MSH によるマウス B16-BL6 メラノーマ細胞の運動阻害機序の解析 | 助手 | 村田 純 |
| ・十全大補湯関連方剤によるマウス結腸癌の肝転移抑制効果 | 技官 | 林 和子 |
| ・抗腫瘍免疫誘導による癌転移抑制とその作用機序 | 博士研究員 | 藤猪 英樹 |

8. 恒常性機能解析部門

- | | | |
|--|------|-------|
| ・粉防己 (<i>Stephania tetrandra</i>) 中の抗高血圧物質-アンジオテンシンI 変換酵素阻害活性成分- | 客員教授 | 丸野 政雄 |
|--|------|-------|

・注意事項

はじめに研究所の現状と課題について所長が申し述べます。

発表時間は1人15分、質問時間は5分です。

座長は最初村田助手、順次発表が済んだ部門の助手の方をお願いします。

本年度は懇親会はありません。

発表会は公開です。